

避難のポイント（全般）

●一人暮らしの高齢者などには気配りを

近所に一人暮らしの高齢者や病気の人がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。



●速やかに避難しましょう

避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には警察・消防などの指示に従いましょう。



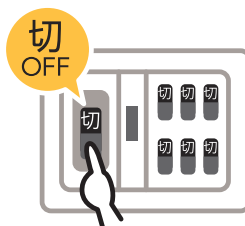
●災害用伝言板・SNSで連絡する

電話が通じなくなることを想定し、SNSなどの連絡手段を複数用意しましょう。



●避難する前に

電気のブレーカーを落とし、ガスなどの元栓を閉め、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



●車での避難は控えて

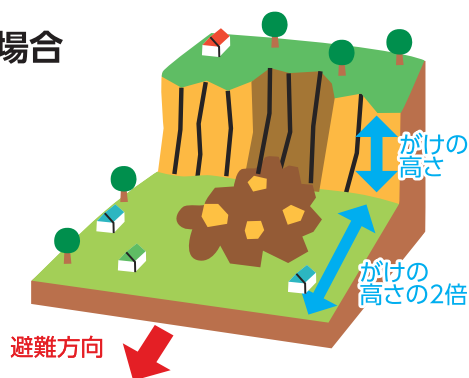
車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



避難のポイント（土砂災害編）

●がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



●土石流のおそれがある場合

溪流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。また土石流が曲がる箇所では、かなり高い位置まで土石流がかけ上がるので、曲がりの外側のほうが内側より危険性が高くなります。



●屋外に避難する場合

避難する際は、土砂災害警戒区域等（イエローゾーン・レッドゾーン）を通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

●屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。



●雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも、土砂災害が発生するおそれがあるので注意しましょう。

避難のポイント（洪水編）

長靴は水が入ると歩きにくく危険です。裸足やスリッパも禁物です。なるべく運動靴をはきましょう。



大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。



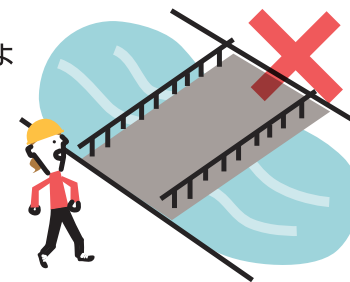
垂れ下がった電線には近づいたり、触ったりしないようにしましょう。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖でつきながら慎重に歩きましょう。



橋を渡らないようにしましょう。



避難のポイント（要配慮者への配慮）

高齢者や障がいのある人など、災害時において特に配慮を要する人は、地域のみなさんの支援が必要です。隣近所等、地域で声を掛け合い、避難しましょう。

●目の不自由な人

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



●耳の不自由な人

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



●高齢者・病気の人

- 背負う（または担架、リヤカーなどを利用する）などして安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



●車いすを利用している人

- どのように介助したらいいか、本人に確認する。
- 階段では介助者2人以上が必要。
- 上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。



災害危険区域内の要配慮者利用施設は、添田町地域防災計画に掲載しています。